

1. 研究課題名：

多様な環境影響評価に資する
風送エアロゾル濃度分布情報提供システムの構築

2. 研究代表者氏名及び所属：

清水厚

(国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター広
域大気環境研究室)



3. 研究実施期間：平成 27～29 年度

4. 研究の趣旨・概要

本研究では、ライダー(レーザー光を利用した遠隔計測装置)により計測される黄砂濃度を数値予報に組み込む手法(データ同化)を応用し、これまでライダー観測が実施されていない地域も含む日本全国における過去年度の黄砂濃度データベースを実測値に基づき作成する。更にその成果を応用して、黄砂の健康への影響についての調査を行う。またライダー観測により黄砂と共存する汚染粒子の様態を推測し、現在環境省から一般向けに提供されている黄砂飛来情報に付加情報を提供する。これらのデータがより広範な環境影響研究に活用されるよう、データ提供のシステムを整備する。

5. 研究項目及び実施体制

サブテーマ(1)「ライダー観測等に基づくリアルタイム黄砂データ提供手法の拡張」
(国立研究開発法人国立環境研究所)

サブテーマ(2)「データ同化を基礎とした黄砂濃度再解析データベースの作成と現況予測の改善」
(国土交通省気象庁気象研究所)

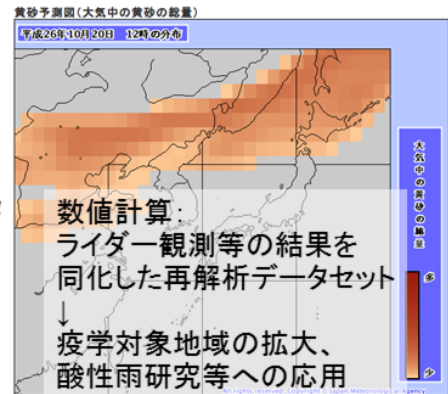
サブテーマ(3)「疫学研究における黄砂濃度データ最適利用手法の開発とその応用」
(国立大学法人京都大学)

6. 研究のイメージ

環境省黄砂飛来情報(情報提供: 国立環境研究所)



気象庁黄砂濃度予測(開発: 気象研究所)



実施期間中:
黄砂と汚染粒子の
共存状態に関する
情報

過去数年度:
これまでライダー観測が
なかった地点の黄砂濃度

一般を対象とした疫学調査

